

令和2年度 学校事務職員事務係長（室長）研修会

令和3年1月8日（午後）に南予地方局7階大会議室において、共同学校事務室長の事務係長24名を対象に南予管内事務長会企画による職階別研修会を実施しました。研修会の概要・様子等は次のとおりです。

【研修Ⅰ】 講義：テーマ「合理的配慮について」 大洲市共同実施地域長 三好 久子
実践発表：吉田共同学校事務室長 小野 香織
肱南共同学校事務室長 宮部 弓

障害者雇用促進法（令和元年改正）及び愛媛県教育委員会障がい者活躍推進計画（令和2年4月）に基づいた講義や障がい者雇用職員とともに働く共同学校事務室の実践発表を通して、障がい者の雇用及び活躍推進の体制整備等、合理的配慮のアプローチ及び障がいの特性に応じた適切な対応を実践するための知識等、また、受け入れ側への支援体制や環境整備等における課題について、情報共有と共通理解を図りました。



<班別協議>

班別協議テーマ：「やりがいを持って働ける共同学校事務室にするために」
〈各班からの発表より〉

- ・室長自らがいきいきと仕事をする事。
- ・室員の能力を的確に把握すること。
- ・室員の努力やプロセスを正しく認め、本人に伝えること。
- ・室員それぞれに手の届く目標を設定させ、その目標を達成し、担当業務に生かせるよう導くこと。
- ・室員の意見を聞き、よい意見は積極的に取り入れること。
- ・感謝の気持ちを伝えること。



協議の最後に三好事務長より、「やりがいを感じるポイントは人それぞれ違う。やりがいは周りが与えるものではなく、自分がこうしたいと考え、それを成し遂げ、貢献できたと感じたときにやりがいにつながる。室長は、室員がそう感じる環境を整えることが大切であり、まずは、室長自らがやりがいを持って仕事をする姿を見せることである。」と指導助言をいただきました。

【研修Ⅱ】 講話：「地域長から室長に望むこと」 宇和島市南部共同実施地域長 薬師神 正浩

今年度末に定年を迎えられる薬師神事務長から31年間の事務職員経験をもとに室長に望むことについてお話をいただきました。

〈共同学校事務室長に望むこと〉

①室長として

愚痴はこぼしても人の悪口や陰口は厳禁であり、敵をつくらないコミュニケーション、反感を買わない言い方や伝え方を意識すること。毅然とした態度で言うべきことは言うことが大切である。また、室員と直接話し、理解を求め、期待を込めて仕事を任せ、モチベーションを高めることが共同学校事務室の機能を最大限に導くことができる。運営方針は一貫性を持ちブレないこと。



②トラブル対応

トラブルを察知したら素早くアクションを起こし、状況を客観的に見て把握し、何をすべきか判断し、誠意を持って対応することが大切である。失敗は室員を成長させるチャンスであり、責任は室長にあるという立場で対応策を伝えていくこと。部下は信頼しても信用するな（信頼することは大切だがミスは誰にでもあるので注意しなければならないということ）。トラブルや失敗談を共有する時間をとることでその蓄積が事務室全体の底上げになる。ミスや失敗を隠さない雰囲気づくりが大切である。

③リーダータイプと目指す事務室

事務処理の適正化・平準化を図り、職階制を生かした事務処理体制を構築し、室員の適性に応じた業務分担を考え、事務室内で知識や経験、スキルを組織として共有し、伝承していくことが室員一人一人の資質能力の向上につながる。結果、事務室の組織力が向上し、組織として機能することになる。情報の共有を確実にし、協力しながら行うことで質の高い共同実施が行える。



④人材育成

「達成する→褒められる→自信になる」というサイクルが人を成長させるため、褒めて育てることが効果的である。アドバイスの押しつけは禁物であり、アドバイスの最後はお互いが笑顔で終わるように心掛けること（褒めるとアドバイスの比率は、2対1）。人材育成は本人のやる気を大切にし、任せてやらせることが大切であり、部下に任せることで組織のレベルも上がる。一人で業務がこなせる室員には、後輩の指導を任せることで自覚や責任感が強化され成長する。日常から室内のコミュニケーションを活性化させ協働を促し、職階を超えて事務職員同士が学び合い、お互いの能力を高め合う場を設けることが効果的である。

講話の最後に、チャレンジを諦めない事務室、気持ちよく働ける事務室づくりに取り組んでほしいとメッセージをいただきました。

【受講者の所感（抜粋）】

- ・障がい者も共に働く仲間であるという認識のもと、当人の障がいの特性に関する正しい知識や理解を深めることが最も重要であると感じた。当人が困っていることは何かを探り、管理職や職場内で研修を通じて理解を深め、外部機関との連携も必要である。受け入れ側の支援体制整備が急務であると感じた。
- ・事務室が組織として機能するために最も大切なことは人材育成だと改めて認識した。室員一人一人が自分の存在意義を明確に持ち、そこで求められる使命をいかに果たすことができるか、その環境づくりが重要なポイントになると感じた。
- ・地域長講話の中でお話された、「リーダーを演じる」という言葉を大切にしたい。たくさんの先輩事務職員に見せていただいたリーダーシップをまねて演じながら、真の力を付けられるよう、資質向上に取り組んでいきたい。

最後に山口次長からの講評で終了しました。